

拝啓 今年も早や1月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。朝晩、犬を連れて、近所の公園を散歩しているのですが、1月に入って、犬が急に元気がなくなり、最近では食事を全く食べないようになり、日に日に衰弱しており、最期のように感じております。いつも散歩の道ずれで、称名の信仰を身につける杖のような役割をしてくれた犬でしたので、いとおしくてなりません。

今回は、内村鑑三先生の『統一日一生』からの引用の10回目です。

10月4日のところに、次のようにあります。

「すなわち各人その職にとどまるべし。しいてこれを転ぜんとするなかれ。ただ「神と共にあるべし」とのことである。これはいかにも宿命節のように聞こえるが決してそうではない。この世の何たるかを知りて、これに処するの道を示したる言葉である。…」とありますが、置かれた場所で、目の前の義務を果たせ、ということでもありましょう。この言葉は、いろいろな人が、大切な言葉として挙げられています。先日亡くなられた渡辺和子さんは「置かれた場所で、花を咲かせなさい」といわれました。

また10月15日のところに「日本的キリスト教とは、日本人が、外国の仲人を経ずして、直ちに神より受けたるキリスト教である。」とありますが、小西先生の説かれた恵心流キリスト教は、まさにこの意味での日本的キリスト教であると思います。どなたかに注目されて、大いに受け入れられることを期待しています。

1月は、1月10日11日と津山へ出かけ、津山土岐家財団の地元の方々への引き渡しの準備的な仕事をしてきました。その行き帰り、新幹線の車中で小西先生の伝記を書くための読書をはじめましたが、今年は意を決し伝記に取り掛かろうと思います。忙しいからと後回にしていたのでは、全く何もやらないことと同じことだと気が付きました。1週間に1回は、図書館に行って、小西先生の伝記の準備をすることにしようという決心をいたしました。

1月17日は、毎年正月に登っている石割山に行く計画が、都合により延期になりましたので、志津の佐藤れんさんと市川の佐生健光さんを訪問して、おしゃべりをしてきました。お元気なうちにいろいろお話できてうれしく思いました。

寒さ厳しい折から、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成29年1月26日

山口周三

エンカウンターの読者各位

追伸 冒頭に書きました犬（ひな太）は、1月26日夜半亡くなりました。